

2023年ブラームス国際コンクール優勝をはじめ数々の国際コンクールで入賞を果たすチェロ界のライジング・スター北村陽、そしてモーツアルト国際コンクールでの日本人初優勝や最高峰ザルツブルク音楽祭への出演、世界各地でのリサイタルなどワールドクラスの活躍を見せる菊池洋子。

今回的小児がん征圧キャンペーン「生きる～2026 若い命を支えるコンサート」は、世界が称賛する国際派ソリスト2名が出演！

全国各地のオーケストラから絶大な信頼を受ける角田鋼亮の指揮による神奈川フィルハーモニー管弦楽団との豪華共演にご期待ください。



菊池 洋子 (ピアノ)

Yoko Kikuchi, Piano

2002年第8回モーツアルト国際コンクールにおいて日本人として初めて優勝、一躍注目を集めました。その後、ザルツブルク音楽祭に出演するなど国内外で活発に活動を展開し、いまや実力・人気ともに日本を代表するピアニストの一人である。

前橋市生まれ。故田中希代子、故林秀光の各氏に師事。桐朋学園女子高等学校音楽科卒業後、イタリアのイモラ音楽院に留学、フランコ・スカラ、フォルテピアノをステファノ・フィウッティに師事。国内主要オーケストラとの共演をはじめ、ザルツブルク・モーツアルテウム管弦楽団、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン交響楽団等と共に演。ザルツブルク音楽祭、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭等、世界の著名な音楽祭にも度々招かれる。

最近では、ウィーン・フィルコンサートマスター、ライナー・ホーネックとのツアーで話題を呼んだほか、バレエとのコラボレーション公演にも積極的に出演し、ディアナ・ヴィニシヨーワや吉田都、上野水香ほかと共に演。CD録音も活発に行い、モーツアルトを中心としたソロ作品のほか、ホルンの世界的名手ラデク・バボラークと共に演したアルバムもリリース。2023年には「J.S.バッハ：ゴルトベルク変奏曲」、「子守歌ファンタジー」、「ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番、4番」を次々とリリースした。

第1回上毛芸術文化賞(音楽部門)受賞。2007年第17回出光音楽賞受賞。

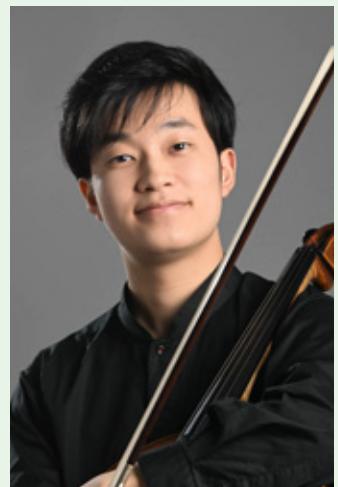
菊池洋子オフィシャルホームページ yokokikuchipf.com

北村 阳 (チェロ)

Yo Kitamura , Cello

2004年生まれ。9歳でオーケストラと初共演し、翌年初リサイタルを行う。2017年第10回若い音楽家のためのチャイコフスキ国際コンクールに満場一致で優勝。2022年第18回ハチャトゥリヤン国際コンクール第2位。2023年第29回ヨハネス・ブラームス国際コンクール第1位。第92回日本音楽コンクール第1位を受賞し、全部門を通じて最も印象的な奏者に贈られる増沢賞、岩谷賞(聴衆賞)、黒柳賞、徳永賞、INPEX賞を受賞。2024年9月ジョルジュ・エネスク国際コンクールのチェロ部門で日本人として初優勝。同年11月パブロ・カザルス国際賞第1位を受賞と、次々に快挙を成し遂

げて注目をあびる。これまでに小林研一郎、高関健、大友直人、藤岡幸夫、山田和樹、アンドレイ・フェーヘル、ジョヴァンニ・アントニーニ各氏の指揮により、多数の楽団と共に演。2020年ユリアン・シュテッケルの代役で井上道義指揮、読売日本交響楽団と共に好評を博す。2021年霧島国際音楽祭賞受賞。遠山基金、宗次エンジェル基金/日本演奏連盟、ヤマハ音楽振興会、ジェスク音楽振興会、江崎スカラシップより奨励金を授与され、第52回江副記念リクルート財団奨学生、2023、24年度ロームミュージックファンデーション奨学生。現在、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コースにて堤剛、ベルリン芸術大学にてイエンス・ペーター・マインツ各氏に師事。これまでに山崎伸子、室内楽を磯村和英各氏に師事。2025年第26回ホテルオーケラ音楽賞、第23回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第34回出光音楽賞を受賞。使用楽器は上野製薬株式会社より貸与された1668年製カッシー。



角田 鋼亮 (指揮) Kosuke Tsunoda , Conductor

東海高校卒業後、東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。2010年、第3回マーラー指揮コンクールにおいて最終の6人に残った。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ブランデンブルグ交響楽団、上海歌劇院管弦楽団、NHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団など主要オーケストラと共に演している。2016年「第11回名古屋ペンクラブ音楽賞」、2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市文化振興事業團第36回芸術創造賞」を受賞。

2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を、2019年より常任指揮者を務める。2016-2020年 大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者、2018-2022年 仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として各地にて活躍の場を拡げている。セントラル愛知交響楽団音楽監督を務めている。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 Kanagawa Philharmonic Orchestra



1970年神奈川県を本拠地とする唯一のプロ・オーケストラとして発足。地域に密着した音楽文化の創造をミッションとして、神奈川県全域をはじめ、全国各地で幅広い活動を続けている。1978年に一般財団法人、2014年には公益財団法人として認定されている。

横浜・川崎を中心とした定期演奏会や県内各地を回る巡回公演などの主催公演を開催。

音楽教育にも積極的で、小中学校での音楽鑑賞教室を全国各地で開催し、広い世代に音楽の魅力を伝えている。また、医療機関や特別支援学校への出張演奏も行っている。指揮者陣には、音楽監督に沼尻竜典、名誉指揮者に現田茂夫、特別客演指揮者に小泉和裕を擁しており、人気・実力ともに益々注目されているオーケストラである。



生きる ～若い命を支えるコンサート～

とは

毎日新聞社は1996年から、小児ガンと闘う子供たちを支援するキャンペーン「生きる」を展開しており、様々なイベントやコンサートを通じて、病気への理解と協力を訴えてきました。

2007年度、クラシック・ヨコハマ版「生きる」として誕生したのが「生きる～若い命を支えるコンサート～」で、今回19回を迎えます。このコンサートでは、著名な音楽家に加え、全日本学生音楽コンクール入賞者が参加して、病気と闘う同世代に励ましのメッセージを送っています。

コンサートの進行は僕が務めます
マルタ